

学生担当者報 9

発行 / 天理教学生担当委員会 発行責任者 / 清水慶政 編集責任者 / 中山祥吉

TEL 直通:0743-63-2489 FAX 0743-62-5780 E-mail tsa@tenrikyo.or.jp
TSA Website https://tsa.tenrikyo.or.jp Happist https://happist.net

Vol. 439
立教 186 年
2023 年
8 月 25 日発行

お知らせ

9月例会

期日：立教 186 年 9 月 25 日
時間：15 時 30 分受付 16 時開始
会場：12 母屋 3 階大広間

学生層育成者講習会

日程・会場案内

教区
・佐賀 9 月 2 日 12 時 30 分 教務支庁

報告

七月例会

去る 7 月 25 日、東右第四棟 4 階講堂において「7 月例会」を開催。出席は 20 教区、95 直属。

各地の動き

【教区学生層育成者講習会】

・岩手 7 月 1 日 教務支庁
中山祥吉副委員長出向 25 名

【直属学生層育成者講習会】

・錦江	7 月 6 日	大教会	80 名
・東本	7 月 16 日	大教会	292 名
・中根	7 月 20 日	大教会	27 名
・愛静	7 月 20 日	大教会	85 名
・甲府	7 月 21 日	大教会	100 名
・芦津	7 月 23 日	大教会	220 名
・蒲生	7 月 23 日	大教会	30 名
・京城	7 月 23 日	大教会	165 名

人事

《立教 186 年 7 月 25 日付》
【直属学生担当委員長辞令交付】
・見子洋子（西・津名）
・山田良政（南・潮江）

業務記録

《立教 186 年 7 月 16 日～8 月 15 日》
7 月 17 日 学生連絡会
19 日 まなびばチーム会議
25 日 委員会 例会
人材育成部部会
広報室会議
27 日 大学生ひのきしん（～6 日）
8 月 9 日 学生生徒修養会 高校の部
直前研修会（～10 日）
立教 186 年天理教学生生会夏期
リーダーの集い（～10 日）
11 日 学生生徒修養会 高校の部（～14 日）

「鬼に金棒」



「鬼に金棒」

「鬼に金棒」ということわざがあります。意味は、素手であっても元々強い鬼に、金棒まで加わったりますます強くなって太刀打ちできないうこと。類義語として「弁慶に薙刀」とあります。鬼と聞けば、怖くて悪者のイメージがあります。が、鬼には人並み外れた能力を持つ者という良い意味もあり、例えば練習の鬼や鬼才という言葉があります。

私たちようぼくは、どんな困難な中も心明るくお通りください。た、先祖のたすけ、一条のひながたを、つとめとさづけを頼りに陽気ぐらしへと歩む、人並み外れた存在だと思えます。しかし、学生層育成の現場において、かわいい学生から「おもんない」「何回も聞いた」「バイトで忙しいから無理」など、弁慶の泣き所を突かれるよ

うな言葉を頂きます。学生に信仰の喜びを伝えるのは、自分の日々のつとめと相手に誠実を尽くすことだと分かっています。ですが、思春期の多感な時期の学生に信仰の喜びを伝えるのは、中々に難しいように思います。そんな、学生や若年層に信仰の喜びを伝える大きな助けとなる「育成に役立つ研修会」が、今年も 11 月 27 日～28 日の日程で開催されます。学担の何よりの強みに、「楽しい」と「信仰の喜びを伝える」という、両立が難しいようなことを、両方とも感じられる「グループワーク」があります。その基本的な体験が出来る「グループワーク体験コース」。そして、グループワークを進めるトレーナーとしての技術と心得を学ぶ「トレーナー体験コース」。それ以外にも、育成行事そのものを一

人材育成部 委員

西川 寿一

から企画、立案するノウハウを学ぶ「プログラム構成コース」。そして、心理学の専門的な角度から、今の若者についての特徴や、SNS や Google フォームなどのデジタルコンテンツの活用方法を学べる「育成者支援コース」の四つがあります。

かわいい学生に信仰の喜びを伝えたいという誠実の心に加えて、グループワークなどの技術も加われば、正に鬼に金棒だと思いますので、担当者の先生方はもちろん、婦人会や青年会など、若年層の育成に関わる方にも声をかけていただいでご参加いただければと思います。

また、その日程以外にも、教区や直属に本部のスタッフが出向する「育成に役立つ講習会」もありますので、お気軽にご相談ください。

令和 5 年 学生担当委員会 活動方針
「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」

「立教百八十六年」子どもおちばがえり 大学生ひのきしん」開催報告

4年ぶりに開催された「子どもおちばがえり」に合わせて、7月27日～8月6日までの期間、日帰りでしたが、大学生層を対象にした「大学生ひのきしん」を募集しました。期間中、1日だけの参加も可能でしたが、多くの学生が複数日参加し、計31名の学生がひのきしんに励みました。

学生たちは、おちばに帰ってきた少年会員に喜んでもらおうと、「廻廊ひのきしん」での受け入れひのきしんをつとめました。天理大学や天理教語学院、天理高校の学生らと共に、フリップを用いたひのきしんの説明や誘導、廻廊での声掛けなどのひのきしんに励み、生かされていることに感謝する心、ひのきしんをする素晴らしさなど、多くの感謝や喜びを味わうことができました。

学生担当者報

連日暑い中、参加した学生たちは汗を流しながらも、それぞれの役割に励んでくれました。久しぶりに「1、2、3、4」の掛け声が響き渡り、元気に回廊拭きをする子どもたちは生かされている喜びを体いっぱい味わっていました。

「立教百八十六年天理教学生会 夏期リーダーの集い」開催報告

天理教学生会は、8月9、10日の2日間に渡り、「立教百八十六年天理教学生会夏期リーダーの集い」を開催し、総勢102名の学生が参加しました。(教区20団体41名、直属16団体24名、学生スタッフ37名)なお、合宿体制は取らず、各詰所から参加し、「道の学生ひのきしんDAY」(9月18日)に向けて話し合いに重点を置きました。

1日目は、班内や学年別、ブロック別での交流が行われました。その中で、お互いを知ったり、学生会活動へ対する思いを語り合ったりすることで、多くの学生と関わり、仲間の存在を感じました。

2日目は、「道の学生ひのきしんDAY」について学ぶ時間を取り、実際にひのきしんをすることで、より一層学びを深めました。また、ひのきしんを通して感じたことを全体に共有し、より多くの感謝を再確認しました。

日々行う「ひのきしん」はもとより、「道の学生ひのきしんDAY」をどう迎えるかについて考え、お道につながる学生として心をひとつにすることを誓い合い、今回の夏期リーダーの集いを終えました。

「立教百八十六年学生生徒修養会 高校の部」開催報告

今年も真夏の親里において、「立教百八十六年学生生徒修養会 高校の部」を8月11日より14日までの期間で開催し、702名が受講、682名が修了しました。また、事前に研修を重ねた355人のスタッフが世話取りにあたりました。当初8月15日の解散を予定していましたが、台風7号の接近に伴い、受講生および送迎時の安全、安心のため、解散を早めることとなりました。期間中、大きな事故怪我なく、道の将来を担う高校生の育成に取り組むことができました。

今年の学修・高校の部は、「陽気ぐらしに必要なこと」向き合うことの大切さ」というテーマのもと、学年ごとに異なるプログラムで開催いたしました。

学生担当者報

スタッフ一同は9日より直前研修会を行い、9日夕勤後の係員結団式では表統領中田善亮先生が挨拶くださり、これから受講生を迎える上での心構えや自分の役割を果たすことの大切さをお話しくださいました。また、参加する受講生はもろろん、係員も学修を通して親神様、教祖にお育ていただくこと

ができる機会であることをお話しくださいました。その後、係ごとでねりあいを行い、受講生を迎える心を作らせていただきました。

期待と不安の中、11日より受講生を迎え、いよいよ本期間が始まりました。各班には受講生にとって、兄・姉代わりとなる男女カウンセラーが付き、各学年でウォーミングアップやオリエンテーション等を行い、心がほぐれてきたところで全ての受講生が一堂に会して、開講式を執り行いました。その席上、学生担当委員会担当常話 田中善吉先生より、この度おちばにお引き寄せいただいたお互いは、親神様のお働き、教祖のお導きを頂いてのことであって、これから始まる5日間を安心して、精一杯、存分に楽しんでもらいたいという激励のご挨拶を頂きました。

期間中、受講生は「グルーptime」を通して、共に語り合い、学修で出会った仲間たちと支え合い、たすけあう中でその喜びを味わいました。また「親神様」、「教祖」、「かしもの・かりもの」の講話を通して、教えに触れる充実した4日間を過ごしました。

青空

私には、育成活動に熱心な父がいました。しかし、私が物心ついたころには父は身上で、そんな父を知ることなく、父は出直しました。

私がおちばの学校に進学し、自分の将来について考えるようになったころ、初めて父がいなかったの重大さに気付きました。そんな時に、詰所や地元の教会で身近な方から父の話をしてもらえる機会がありました。「お父さんには…」と話に聞く父の姿は私の憧れになりました。

自分の人生での選択がすべて正解だったとは思いませんが、父がつけてくれた道をたどる選択の裏には、いつも母の喜ぶ姿があったように思います。今でもついで、そういう選択をしがちです。

父は、自分に生きる道を示し、また母へ孝行する喜びを伝えてくれたんだなと思っています。親を思つて選ぶ道には、いつも神様から守っていただいているような安心感があります。

育てていただいた親々への感謝の気持ち忘れず、人の成長を願って参りたいと思います。

人材育成部本部スタッフ 松井 稚

開講式で表統領先生は、この学修はいろいろな親心が重なって、おちばにお導きくださったおかげであり、このおちばは一人ひとりの真実の故郷であり、必ずたすけてくださる場所だということを忘れないようにしてほしいとお話しくださいました。さらに、帰ってからも生かさせていただいていることに感謝を込めてお話しくださいました。

開講式後のお別れ会では、心を通わせ、共に4日間を過ごしたカウンセラーと受講生が別れを惜しみ、涙する感動の場面が各学年で見られました。

スタッフ一同はこの度のご用を務めたことを吉祥に、これからも学生と共に育つ成人の努力を積み重ねていくことを誓いました。最後に、この度は真柱様、奥様、大亮様の親心を賜り、また各教区、直属学生担当委員会の皆様方には急な解散日時の変更にもかかわらず、大きなご理解とご協力のもと、「学生生徒修養会 高校の部」をつとめ終えることができましたことを深く感謝申し上げます。